

第1回少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組研究会 会議録

開催日時	令和2年 12 月 15 日(火) 午後3時～午後5時 15 分
開催場所	市役所 C 棟3階 311～313 号会議室
出席者	<p>座長:代田昭久 副座長:後藤正幸</p> <p>研究会委員:松島ゆかり、斎藤辰幸、金田功次、清水麻由美、松本智、小澤伸好、木下博史 塩澤章男、塩沢哲夫、伏木久始、坂野慎二(リモート)、北澤正光 (欠席者)及川崇、岩崎守倫 (敬称略)</p> <p>事務局:今村和男教育次長、桑原隆学校教育課長、湯本正芳学校教育専門幹、塩澤裕美子教育指導専門主査、田中清一教育指導専門主査、牧友博教育指導専門主査、山浦貞一教育支援指導主事、滝沢拓洋課長補佐兼総務係長、竹村公彦課長補佐兼教育企画担当主幹、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、仲田好寿保健給食係長、松野由幸学校施設係長、小澤亮公学校施設係</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 研究会委員名簿 3. 研究会設置要綱 4. 研究会事務局名簿 5. 少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組 6. 飯田市小中連携・一貫教育の経過と目指す方向 7. 飯田コミュニティースクール 8. 飯田型キャリア教育(地域人育成プログラム)構築のイメージ 9. 山あいの“小さな小学校”の世界につながる“大きな挑戦”(上村小学校) 10.1 人 1 台の学習用端末による「新たな学びのスタイル」の実現(ICT 活用)
記録者	事務局竹村
会議録	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事録の公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報道機関にも公開している。 ・議事録は委員に内容を確認いただいた後、教育委員会ホームページ等で公開する。 <p>3. 委嘱状の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期は本日から令和3年度の指針を策定するまで。 <p>4. 教育長挨拶(代田教育長)</p> <p>ただいま委員への委嘱をさせていただいた。皆さんの経験など忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>この会議は昨年度から準備を進めてきた。少子化が進んでいること、建物の老朽化などから、このままでは持続可能な状況ではないということを議会にも説明した。今年度から事務局で様々な資料を作成し、10 月からは専門の担当者を置き、今日の研究会に至っている。そして令和3年には教育委員会としての指針を策定したいと考えている。</p> <p>～資料「少子化における児童生徒の教育環境の充実にに向けた取組」1 頁の説明</p> <p>飯田市は町や村が合併して大きくなってきた。飯田市には 28 の学校があるが、それぞれの地域に根ざし、地域とともに歩んできた学校である。成り立ちや地域との関係性が都会の学校とは大きく違う。社会環境が大きく変化しても、飯田らしい教育環境が展開されるためにはどん</p>

な学校がよいのか、子どもたちの未来のために、みんなで考えていきたい。～

2015年に文部科学省から学校規模の適正について通知が出た。小学校6学級、中学校3学級の学校については、統廃合の適否を検討すべきだというものである。この通知を以て一方的に進めることは、地域とともに歩んできた飯田市の学校にはそぐわない。それぞれの地域の持つ良さ、文化や自然を大事にしながら子どもたちにとってどんな環境が良いのかみんなで考えていきたい。

今回委員になっていただいた伏木先生には長野県の事情を、また坂野先生には長野県以外の知見についてもいろいろ教えていただきたい。

5. 委員自己紹介

6. 座長の紹介、副座長の指名(座長:代田委員 副座長:後藤委員)

7. 教育委員会からの説明

(1)「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」について

(2)飯田らしい教育活動の紹介

ア. 小中連携・一貫教育、飯田コミュニティースクール

イ. 地育力・ふるさと学習・飯田型キャリア教育

ウ. 山あいの“小さな小学校”の世界につながる“大きな挑戦”(上村小学校)

エ. 1人1台の学習端末による「新たな学びのスタイル」の実現(ICT活用)

(3)質疑応答

(委員1) 学校施設の複合利用もふまえた維持・更新コストの推計は今後出てくるのか。

(事務局) 飯田市では公共施設マネジメントについて平成26年度に方針を作り、すべての公共施設をマネジメントしていこうとしている。こうした経過から学校については、今回お出した資料として把握している。また、公民館についても推計として把握している。ただ施設は幅広くあるのですべてについては把握するに至っていない。

(委員1) どういうものを目指すかによって、より現実的な事実資料が今後必要になってくる。もし学校の複合利用を考えていくなれば、それに対するコスト資料が脇にあった方が正確な議論ができる。

(委員2) 学校施設の改築については一律面積を80%にするとしているが、今後議論が詰まっていたときには、より正確な試算をお願いしたい。

8. 協議

(1)飯田市の目指す姿

(座長) 飯田市の学校には地域に根ざし地域と歩んできた歴史がある。一方的に文部科学省の基準により進めていくのではなく、「子どもたちを真ん中に置いてどんな学校がよいのかみんなで考えていきたい」という大前提について確認させていただきたい。

(委員3) 全国で少子化によって学校のあり方を考えるとき、学校と地域を大切に考えるということが一点ある。5つの提案については、全国で進められている考え方がすべて盛り込まれていると思う。②について、規模が小さいことで教育の質を高めようとしていることがわかる。これにはICTの活用が必須である。④と⑤について飯田市は面積が広い。移動時間と学校規模についてどれくらいを目安とするのか、市町村の事情で変わってくると思う。移動時間と学校規模をどう組み合わせるのかこれからの検討の中心になっていくと思う。

地域のなかでの学校のあり方を考えることは絶対的に必要なこと。1頁に書いてあることは正しい。良い方向に進むと思う。

(委員4) 子供が中心であることは最も重要なことである。この考え方は大賛成である。国県市の都合や財政

的なことは後からついてくること。それぞれの学校はその地域の宝という考えは浸透している。地域に関わって子どもたちが育つと同時に地域も育っていく。これからいろんな問題が出てくると思うが、ぜひ子ども中心という考え方で進めていってほしい。

(2)「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組」の進め方について(事務局説明)

(委員1) 今年度作成する「教育委員会からの提案」はどのくらいまでを視野に入れているか。全体のビジョンについては賛成だが、この提案に学校統廃合や義務教育学校の設立、学校施設の複合利用、バス通学、小規模特認校制度の導入まで含めるのか。

(事務局) 現段階の資料に委員の皆さんの意見を聴いて付け加えていくイメージでいる。地域によって目指す方向はさまざまになると思うので、どういった方向が良いのか考えられるような、いろいろな選択肢を示した資料にしたい。学校運営協議会で意見交換する際には、その地区ごとの資料は必要になってくると思う。

(座長) 5つの提案を中心にしながら、より分かりやすいものを提示していきたい。この研究会の間に6つ目、7つ目が出てきても良い。

(委員5) 教育委員会からの提案が急に出てくると、地域の皆さんはびっくりする。こんなことを検討しているということをわかりやすい形で広報してほしい。

(委員6) 学校運営協議会に5つの提案をされてもなかなか答えられないのではないか。今年度の学校運営協議会はあと1回しかない。どれくらいの資料がいただけるのか、学校運営協議会からの回答をいつまでにしないといけないか示してほしい。

(事務局) 今年度の学校運営協議会には「来年度からこんな方向で進めていきたい」ということを伝えるに行く。来年度の学校運営協議会では、結論をもらうというよりは地域の状況や歴史などを意見交換できればと考えている。その中で今後の学校像の方向が出れば、それで良いと思うがそんなに簡単なものではない。委員の皆さんの意見を聴きながら、学校運営協議会で意見交換しやすい資料にしていきたい。

(座長) 14 頁にあるように、それぞれの学校を具体的にどうしていくかは令和4年からと考えているので、そこに至るまでの指針を来年度中に作っていきたい。来年度学校の方向を決めるところまでは求めている。

(委員7) 今回のこの検討に、児童生徒も加えていただきたい。子どもたち自身にこのことを問うてみたいし、ふるさと学習や総合的な学習の題材にもなりうる。ぜひご検討いただきたい。

(委員8) 非常に大きな課題である。学校運営委員会には地域づくり委員会の代表しか参加していないので、他の役員の意見ももらえるようなかたちにしてもらいたい。

(3)「将来にわたり子どもたちが主体的に学びあえる場」について

(委員1) 5つの提案については特に異論はない。

長野県第1号の義務教育学校となった信濃小中学校では、私も開校までの3年間と、開校後の4年間お付き合いさせてもらった。相当時間をかけないといけない。小学校5校の学区の利害が全く違っていた。批判もあり、自分の母校がなくなるという痛烈な反対もあった。「未来の子供たちに焦点を当ててがんばりましょう」ということで納得してもらったプロセスに、相当多くの行政側からの説明と対話集会が必要だった。先生方の横の連携も必要である。方針を決めるのは良いが、実際具体化していくには相当の時間と対話が必要である。先生方は人事異動があるので、それにくじけない仕組みを考える必要がある。美麻小中学校も8年間関わっているし、根羽学園も内情を知っている。小規模校だからこそできる学校づくりを前向きに考えている。こういう取り組みをヒントにすることは良いと思う。

提案②では学校選択制のことを言っているわけではないのか。②の特色ある学びについて、飯田とい

う共通した文化がある中で、各学校の特色を出すことはなかなか難しい。子ども中心とするはずなのに、もともとあった慣習や伝統という名の形式をやりつづけることで、子どもから離れていくという傾向が長野県内いろんなところである。「子どもが宝」というのは信州教育の神髄であると思っている。飯田の良さ、大事に守り続けるものは何だろうということを世代を超えて意見交換する必要がある。先ほどの子どもが参加するというのは大賛成である。飯田の特色は公民館であると思っている。未来の公民館活動を子どもたちが主体的に考えるような学校教育ができたりすると面白いと思う。飯田の特色って何なのか共通理解を持つ必要がある。外から見たときに「飯田だからこそ」というものが出せれば良いと思う。

提案③については既存の法律の枠組みなどでなかなか難しいと思うが、これができたら素晴らしい。ユーザーサイド(子どもや住民)の教育ができると思う。

提案④⑤は統廃合が絡む問題であるので、慎重に進めるべき。短時間でやると禍根を残す。

(座長) 現時点では、学校選択制は今回の提案には不向きであると考えている。

(事務局) 今後この件をまちづくり委員会や保護者間で話し合っていく中で、こんな資料があったら良いというものがあつたら、率直にお出しいただきたい。

(委員9) 私の地元の千栄小学校は人数が少なく、いつも存続を心配している状況。飯田市が統合を言うてくるのではないかという不安がある。千代地区では以前保育園の統合の話があつた。結局千代保育園、千栄分園という形になったが、すごくもめた。学校については、上手にやっていかないとすごい問題になるという不安がある。

(委員10) 高陵中学校は上郷小と座光寺小の生徒が来ている。中学生でも一番遠い子は阿島橋のあたりから1時間くらいかけて来ている。小中一貫となるとどうなるのだろうか。スクールバスなども考えてくれるのではないかと思うが。他の地区にも課題があると思う。保護者の意見や、学校の先生の意見をしっかり聞いていかないと難しい問題である。各学校の統合の経過や児童生徒がどんなところからきているか、通学時間のような資料があればうれしいと思う。

(委員11) 丘の上の学校で考えると、追手町小と浜井場小については、これまでのなりたちや古くから住んでいる地域住民の思いがあるので、統合ということになればかなりの時間がかかるのではないか。また、追手町小、浜井場小、丸山小の統合の話も出たりすることはあるが、かつての飯田町、上飯田町が合併して飯田市になったという成り立ちを考えると、単に人数合わせの統合は難しいと思う。

(委員4) ①～⑤の提案があるが、すぐできることと時間をかけてやるべきことを分ける必要がある。③の児童クラブについては予算をつければすぐできる話だ。一方④の通学区の見直しや⑤の統合は、全国の例などをしっかり調査をして時間をかけてやってもらいたい。龍江では竜峡中学と竜東中学に分かれており、同じ地区内なのに学校が違う子がいる。成人式の時など見ていて本当にかわいそうだ。

(委員12) 「将来にわたり子どもたちが主体的に学びあえる場」を考えると、鼎地区のように数年たつてもほとんど人数が変わらないところと、逆に大きく減ってしまうところがある。人数が変わらないからずっとこのままでもいいということではなく、10年、20年先の子どもたちが主体的に学びあえる場をどう作っていくのかということの入口の位置付けだと思う。すぐに統合とか通学区の見直しということよりも、もう少し先を見ながらどんな枠組みを作っていったら良いかという会であると感じている。

9. 次回開催の案内(事務局)

- ・次回研究会 令和3年1月26日(火)午後3時～5時 場所は後日連絡
- ・内容 学習会:他市の実践例など(講師:坂野委員、伏木委員) 協議:「将来にわたり子どもたちが主体的に学びあえる場」について

10. 閉会(副座長)

皆様お疲れ様でございました。

説明と協議を通じてはっきり確認できたことが3つあると思います。それは、「目に見える少子化」「目に見える校舎の老朽化」「目に見えるコスト」。これがこの課題のベースになっていると皆で共有できたと思います。一番楽な方法はそこに立ち止まって何もしないこと。ただ、その後たいへんな事が起こってくる。ここで言っている「みんなで考えましょう」の「みんな」とは、ここにいる我々だけでなく飯田市民一人ひとりのことであると思う。市民一人ひとりが先ほどの3つのことを共有しなければいけない。

信州の方言に「わかされ」という言葉がある。分かれ道・分岐点という意味である。1872年に学制が誕生し近代教育が始まった。黒船という外圧であった。戦後の教育をふりかえてみても敗戦という外圧により大変革が起こった。今コロナという外圧が迫っているが、これは何かを象徴しているように思えてならない。これから来る分かれ道。どっちに進んでも価値がある。でもそこに立ち止まっているわけにはいかない。そして分かれ道を同時に歩むことはできない。

平成21年7月、百数十名の生徒を引率し乗鞍岳の剣ヶ峰登山を行った。夏なのに異常な寒さと強い風に考えさせながら剣ヶ峰の一つ手前の肩ノ小屋についた。子どもたちは3か月も前から準備している。目標である剣ヶ峰を目指す上り坂の道。子どもたちの命を守るという下り坂の道。非常な選択に迫られたことを今思い出す。我々は下り道を選んだ。下り道を選んだ時に、もう一つの価値ある道を捨てた。大事なはそのことへの配慮、捨てたほうの道のために何ができるかと考えることである。この日北海道のトムラウシ山では寒さによりツアーガイドを含む大勢の方が亡くなった。上るという判断をしたのは何だったのか、下るという判断をしたのは何だったのか。両方の道に価値はある。私たちに問われている自分の問題なんだと改めて思っている。

今回は学習会で情報をたくさんいただける、楽しみにしています。お疲れさまでした。